

広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用の方針

平成 2 9 年 3 月

広 島 市

目 次

I 広島大学旧理学部 1 号館について……………	1
II 保存・活用の方針……………	2
III 今後の進め方……………	2
資料編……………	3

I 広島大学旧理学部 1 号館について

1 建物概要

所在地：広島市中区東千田町一丁目

設計者：文部省会計局

施工年：昭和6年（1931年）

[昭和8年(1933年)に一部を増築]

構造：鉄筋コンクリート造

基礎：直接基礎

建物規模：地上3階（建築面積 約 2,800 m²、延床面積 約 8,500 m²）

外部仕上：基礎 花崗岩

（建設当時）外壁 スクラッチタイル

窓 木製（補修により一部スチールサッシ）

車寄 花崗岩石積、鉄扉

内部仕上：玄関廻 床 モザイクタイル

（建設当時）腰壁 大理石

壁 漆喰塗

内部一般 床 モルタル金こて

壁 漆喰塗

天井 漆喰塗

2 建物の略歴

建設から 被爆まで	昭和6年	広島文理科大学（昭和4年開校）の本館として完成
	昭和8年	増築されてEの字形になる
	昭和20年6月	3階部分と2階の一部が、中国地方総監府（本土決戦に備え、本土分断の際にも自立できるための地方行政機構）に接收
	昭和20年8月	被爆（敷地は爆心地より南南東1,420mの地点）、火災発生
被爆後の 建物利用	昭和21年9月	講義を本格的に再開
	昭和24年5月	学制改革で広島大学に包括され理学部校舎として使用開始
	昭和33年	改修工事（壁の一部は、東広島キャンパスで保存）
東広島 キャンパスへ の移転後	平成3年	理学部が東広島キャンパスへ移転 （玄関の鉄扉中央の飾り物と、取り付け丁番は、東広島キャンパスへ移設）
	平成6年	被爆建物等台帳登録
	平成25年4月	本市が建物及びその敷地を独立行政法人国立大学財務・経営センター（当時）から無償取得

3 被爆建物としての位置づけ

広島大学旧理学部 1 号館は、「広島市被爆建物等保存・継承事業実施要綱」第4条に基づいて、平成5年度に台帳登録されており、その内容は次のとおりである。

- ・被爆時の名称：広島文理科大学
- ・所在地：中区東千田町一丁目 1-89
- ・爆心地からの距離：1,420m

【参考】広島市被爆建物等保存・継承事業実施要綱（抜粋）

第4条 保存・継承の対象となる被爆建物等は、建物及び橋りょうにあつては爆心地から5キロメートル以内に現存するものの中から、樹木にあつては爆心地から概ね2キロメートル以内に現存するものの中から、市長が被爆の事実を調査把握したものとする。

II 保存・活用の方針

1 基本的な考え方

- ・ 旧理学部1号館は、かつての学都広島としての歴史を象徴する建物であり、また、被爆建物であることを踏まえ、「知の拠点」の核となり、新たな時代に向けて知の継承を図るとともに、被爆の実相を後世に伝えることができるよう、保存・活用する。
- ・ 保存・活用に当たっては、広島大学本部跡地全体が「知の拠点」としての機能が高まるような機能の導入を図る。

2 保存・活用の方向性

- ・ 被爆の実相を後世に伝え、未来に向けて平和への思いを共有できる空間とする。
- ・ 多くの人が集い、交流し、新たな知を生み出す空間とする。
- ・ 中長期的に持続可能な用途、規模により、活用する建物の部分を保存する。

3 保存範囲及び活用方策

(1) 保存範囲

正面部分の建物は保存する。その上で、活用のための施設規模がさらに必要で、見込まれる事業費が確保できれば、保存範囲を拡げる。

(2) 活用方策

「幅広い世代に門戸を開いた広島ならではの平和に関する教育・研究や交流・活動を行う場」として活用することを基本とし、複合的に「幅広い世代の人々が集い、多目的に利用できるコミュニティスペース」として活用する。

III 今後の進め方

活用方策の具体化を図るため、地域の大学や関係者と連携しながら、具体的な導入機能等の検討を行う。

資料編

1 広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会

広島大学旧理学部1号館の保存・活用の方針の取りまとめに当たり、有識者や関係団体等で構成する「広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会」を開催し、幅広い意見等をお聴きした。

(1) 広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会の開催状況

開催日及び会場		議事
第1回	平成28年6月27日 広島市役所本庁舎14階 第3会議室	(1) 座長の選出について (2) 広島大学本部跡地の活用状況について (3) 広島大学旧理学部1号館の建物概要及び劣化状況調査結果について (4) 広島大学旧理学部1号館の保存・活用に係る市民アイデア募集の結果について (5) 他都市の歴史的建造物の保存・活用事例について (6) 「広島大学旧理学部1号館の保存・活用の方針」の全体構成及び懇談会の進め方について
第2回	平成28年8月3日 広島大学東千田未来創生センター 3階 講義室M304	(1) 広島大学本部跡地における取組状況について (2) 旧理学部1号館の保存・活用について
第3回	平成28年9月1日 広島市役所本庁舎14階 第7会議室	(1) 広島大学本部跡地における取組状況について (2) 旧理学部1号館の保存・活用について
第4回	平成28年12月5日 広島大学東千田未来創生センター 3階 講義室M304	(1) 保存範囲及び活用方策について
第5回	平成29年2月1日 広島大学東千田未来創生センター 3階 講義室M304	(1) 旧理学部1号館の保存・活用の方針について

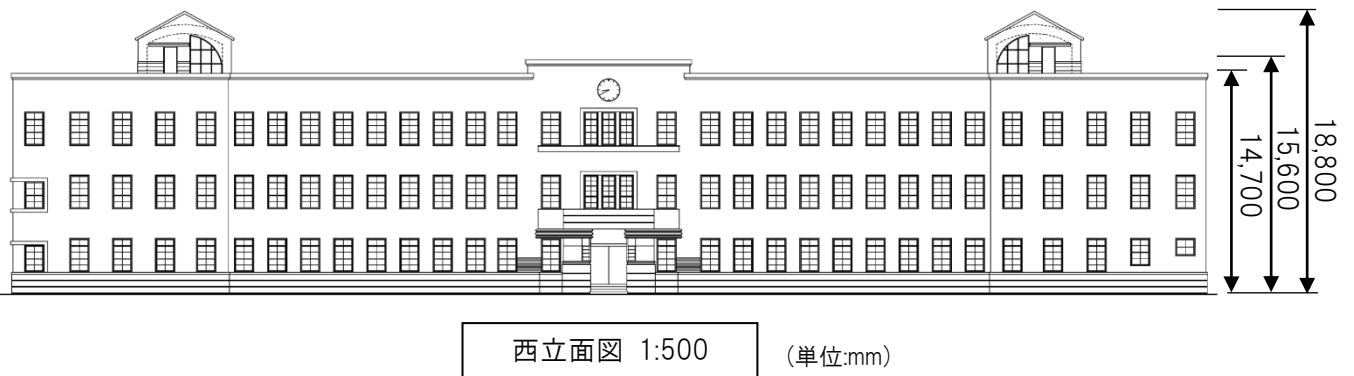
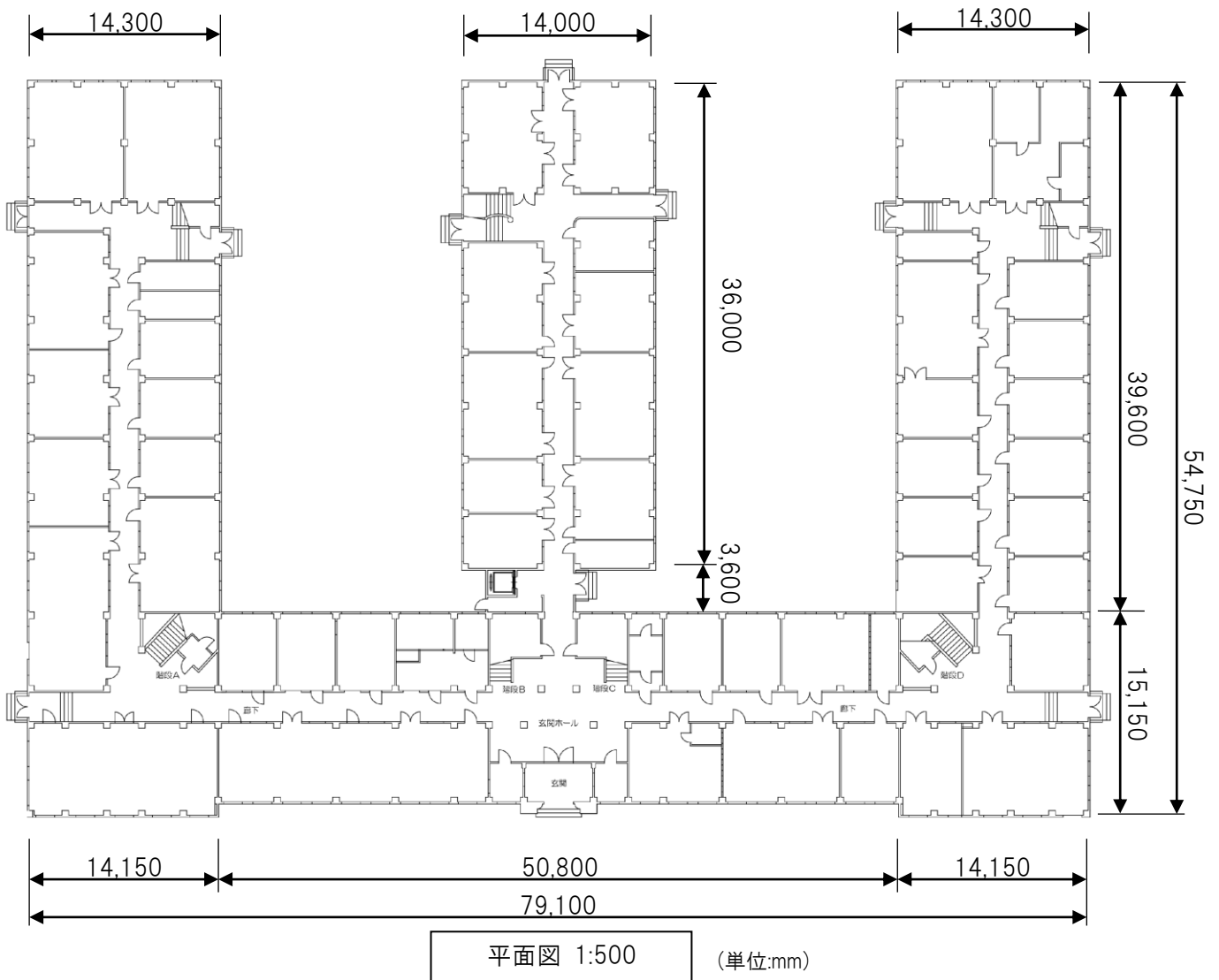
広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会の開催状況の詳細は、広島市ホームページの「まちづくり > 都市整備 > 広島大学本部跡地の活用」の中に掲載しています。

(2) 広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会委員

区分	氏名	所属団体・役職
座長	高田 隆	広島大学 理事・副学長(社会産学連携担当)
委員	小谷 幸生	広島経済大学 経済学部学部長
委員	桐木 建始	広島女学院大学 副学長
委員	久保田 トミ子	広島国際大学 副学長
委員	河内 浩志	広島工業大学 副学長
委員	弘法 寛三	広島大学本部跡地活用促進会 会長
委員	曾根 嘉太郎	広島経済同友会 都市機能委員会副委員長
委員	谷村 武士	広島商工会議所 専務理事兼事務局長
委員	坪井 直	日本原水爆被害者団体協議会 代表委員
委員	原田 俊英	県立広島大学 理事・副学長(研究・地域貢献・国際交流担当)
委員	村上 堅造	千田地区社会福祉協議会 会長
委員	山川 肖美	広島修道大学 副学長・ひろしま未来協創センター長
委員	頼 祺一	原爆遺跡保存運動懇談会 座長
委員	若林 真一	広島市立大学 理事・副学長(企画・戦略担当)

(委員は五十音順。敬称略)

2 広島大学旧理学部1号館の1階平面図、西立面図及び床面積表



	算定式(※1)	面積
1 階	$(15.15 \times 14.15) \times 2 + (14.15 \times 50.8) + (39.6 \times 14.3) \times 2 + (36.0 \times 14) + (3.6 \times 6.5)$	2,807.53 m ²
2 階	同上	2,807.53 m ²
3 階	同上	2,807.53 m ²
PH階(※2)	$(5.7 \times 5.85) \times 2$	67 m ²
合計		8,489.59 m ²

※1 吹き抜けも算入

※2 屋上に設けられた階段室の部分